

船 団

第 120 号

特集
東京



[連載 エッセイ]

- 4 日本語ノート⑦②始終苦 森山卓郎
-
- 6 今日の川柳④⑤パピプペボ川柳 芳賀博子
-
- 8 私と俳句⑩俳句と短歌と私 栗木京子
-
- 100 映画に恋して、俳句に恋して⑩
具体と抽象・類想について 衛藤夏子
-
- 102 不器男の森から②不器男ゆかりの地をめぐる休日 川嶋健佑

[評論]

- 80 日野草城ノート⑬俳句の韻律 木村和也
-
- 88 時代と文脈から読み直す⑥
「第二芸術」？の桑原武夫？ 鈴木ひさし
-
- 93 一句考察 加藤綾那・川嶋健佑・工藤 恵・藤田亜未・
山本真也・わたなべじゅんこ
-
- 104 会員作品
-
- 138 今号の15句 三宅やよい・木村和也・塩見恵介・小西昭夫・中原幸子
-
- 144 エンジンルーム

表紙・カット／山本真也 レイアウト／松山たかし・阪脇幸夫



東京

[特集]

- 30 座談会 私の東京 田中亜美・赤石 忍・紀本直美・
近江文代・三宅やよい
-
- 46 座談会 東京を遠望する 吉村萬志・津田このみ・工藤 恵・木村和也
-
- 63 東京200句
-
- 10 俳句30句 岡野泰輔・河野祐子・加藤綾那・SEIKO・近江文代・
林 豊美・木郷すみ・三池しみず・森山卓郎・山本みち子

青塚 英子

流れきて夕日見送るひつじ雲
子供泣く声の過ぎゆく宿の月
子の匂い去りて二人の星月夜
胸のうち自ずと知れる放屁虫
星見上げ気道確保の晩秋夜
蟻螂よ邪険にしたは食べ残し
街灯の帰道にも猫じゃらし

赤石 忍

東京へ半歩踏み出し秋の暮
木枯しの行方は不明東京も
東京はタリラリランだな鳥渡る
東京を切り刻む夜海亀来
東京をT O K I Oと言えぬ春日和
冬ざれた東京の縁をサクサクと
東京は左右対称春の川

秋山 泰

なにかしらはみだしてくる衣被
もういつかいもういつかいだけ穴惑い
鍵穴を覗けば夜露マジロ
弦月のナオミを開ける鍵がない
いなびかりヤアスパシーバオプジーボ
暮の秋枕営業したまんま
どの解も素数となりて冬もみじ

明星 舞美

関ヶ原戦を知らないススキです
宇治は秋浮舟の髪流れゆく
胡散臭き献盃ぐびっと蚯蚓鳴く
秋日和I C O C Aどこか行きました
奈良の秋シカシカシカとカシヤカシヤと
司馬遼の落書きの襖新走り
炬開きや娘に母の形見着せ

●会員作品●

赤坂 恒子

赤茶けし父の日記や終戦日
蓑虫をつつついてより出掛けたる
秋雷の一閃老女走り出す
ここよりは柿実る里陶の里
秋霖のどんみり海も私も
晩秋をひろうて楽し山路かな
叫ぶとう貌なり残る木の葉かな

秋月 祐一

ファンキーな鬼地獄絵に秋の風
暗転の場ミリテープの銀河かな
小林賢太郎式土偶秋麗
万年の余熱のごとき土偶かな
@夜@きんもくせい@のぼく
録音した自分の声つてへん夜長
鏡台の裏にねこみちそぞろ寒

朝日 泥湖

男って可愛いものね草の花
体育の言うだうだと飲みかつ句作
ひよっとして家族なんだね秋刀魚焼く
いわし雲故郷キライなんて嘘
長き夜を甘え上手な猫と酒
ひょう柄の服のおばちゃんハロウイン
なまこ食むまあええがなとひとりごと

浅海 好美

院長の回診時間時鳥草
冬病棟象あざらしの如寝まる
食終へてすぐに寝る母仏手柑
大量の糞に驚く看護師長
冬木立試歩の距離のまた伸びて
銀杏の実ポロリポロポロ平和通一丁目
鰯雲平和通一丁目

●会員作品●

あざみ

小夜時雨娘でも妻でもなく私
冬期限定の男ですはにかみ屋です
月夜茸都合の良い日に来てちょうだい
冬銀河葡萄色に嫉妬され
小春日の母と黒猫ルパンかな
一茶忌の秩父の人の秩父弁
喪中葉書に愛犬の名口口とあり

杏中 清園

栗御飯くりくり坊主のお弁当
秋晴れの中金堂より散華舞う
校倉の御物が眠る星月夜
柿すだれ遠景にある畝傍山
天平の息吹の宿る秋の展
行列や正倉院展の照紅葉
局長のお世話している目高かな

井上 曜子

やさしさはどこから来るの緑雨から
ハーブティ日午のヤモリと私と
水平線ハイビスカスと白い猫
星月夜童女にもどる一步半
辻曲がる金木犀の一撃
木の実降るきやらきやら笑う赤ん坊
失せ物の失せっ放しでとろろ汁

植田 かつじ

漬物が美味しい食堂小鳥来る
電線に鵝肉屋のコロッケ五十円
秋うらら車椅子駆るストーカー
人消えた原野に群れし赤とんぼ
体育の日シャワー終えれば城達也
教室で母乳あたえて涼新た
流星が会社に落ちて解決す

●会員作品●

池田 澄子

秋深む水母と水母の餌揺れつつ
蓑虫や虚子も指もて揺すりしか
出来たてのお萩てかてか亡夫に二個
ともしびや旬の秋刀魚の鮮血や
旅人の空に未熟の柿どっさり
足跡の此処に絶えたる草もみじ
灯の下の紅茶にジャムを漱石忌

伊藤 五六歩

逃水や前方後円墳巡り
百合咲いてマーキングして人の道
鯖水煮缶で指切る後の月
野川にも笛鳴りいだす夏祭
小父さんが小銭ばらまく小春かな
浅草やせいろ一枚秋暮るる
三島忌や中二階だけ焼け残る

内田 美紗

泉下とは涼しきことば朝の月
鴉の贅八岐大蛇神話の地
草じらみ投げつけ甲斐のある背中
定形外封書投函冬隣
タバスコを利かせ過ぎたる憂国忌
過去未来現在おでん煮てをりぬ
ごみ箱に反古のもぞもぞ冬の夜

乳原 孝

無音より振れだすタクト夜の秋
みみず鳴く数字の0が口開けて
切符など口にくはへて秋の旅
捨てらるる亀虫紙にしがみつく
小春日のマールブルチョコが手にあふれ
いわしぐも連結車両わかれゆく
冬うらら皿にくつつかないラップ

●会員作品●

紀本 直美

文化の曰うちの息子は家がすき
リビングに平成最後の牡蠣鍋
することがなくて勤労感謝の日
寒晴れのファン感謝デーみなお辞儀
ハッウーヤツ津軽じょんがら冬の宿
メイドインジャパン年賀状がおどる
心配事ビターチョコに溶かして焼く

後藤 雅文

空き家には婆ちゃん住んで柿熟れて
婆ちゃんはポストの中よ鉦叩き
月明の湖を仮面で濁らせる
梟の森が星座を回してる
大衆の定義は不明秋刀魚選る
いい加減とは決断すること秋の空
カレーパンの刺激神去り月独り

林田 麻裕

歌うようにスカート揺れる秋日和
秋の朝便秘の歌ができそうだ
ちちる虫僕に行くなど言うのかい
秋雨が作る薄闇精神科
雨に濡れるコスモスまるで君のよう
何も持たず秋の診察室入る
人体模型君は幸水が好きかい

火箱 ひろ

涼新た三日月形のパン焼いて
八月のひまわり色の椅子二つ
あつとんぼ塩辛とんぼ俳句の日
無花果をぼくり岡山の女
黒板が正しく黒く鰯雲
のんどりと国歌斉唱蛇穴に
星月夜メタセコイヤは放電中

●会員作品●

坪内 稔典

晩秋の入り江のほとりオレがいる
カキフライ定食選ぶ一葉忌
ママカリの酢漬け分け合う秋がゆく
小春日の頬杖雲が寄って来る
山々が遙かココアの湯気が立つ
君は棋士リングの蜜の満ちるころ
リングにも貝の匙にも秋の影

中原 幸子

ロンドンもパリもモノクロ梨を剥く
ロンドンの漱石ロンドンの小鳥
子規忌ですアンパンマンに手を振って
手のひらのサプリころころ流れ星
ちちははのお墓引つ越すことも秋
うまそうな川流れゆく小春かな
望郷を止まり木として冬はじめ

陽山 道子

ビオロンの弓がしなって湖に月
生き生きと雨月の堂の修行僧
秋野原自転車ころがし空へ行く
それぞれが違う鍵持つ秋の暮
鉛筆の芯の丸くて柿の空
あけぼのの白山茶花の落ちる音
行く秋の通過列車が緩いのもよ

三宅 やよい

たましいのくびれと思う落花生
終電が大満月の車庫に入る
低く抱くコントラバスを秋の昼
そぞろ寒金具のうつるレントゲン
ここかしこどんぐりの尻あちら向き
顔色を読まぬAI柿の秋
大田区をはずれ狐火見てしまう

●会員作品●